



第67号

編集室 〒794-2114  
愛媛県今治市吉海町  
名2916-2 高龍寺内  
TEL 0897-84-2129  
FAX 0897-84-4495  
Eメール info.koryuji@gmail.com  
責任者 鴨井 智峯

## 暑中御見舞い申し上げます。

高龍寺 院家

令和4年3月16日をもって、総本山仁和寺執行真言宗御室派総務部長の職を任期満了致しまして、帰山致しました。

仁和寺奉職中は、何かと檀家さん達にご迷惑をお掛けしたことを深くお詫び申し上げますとともに、何かとご配慮賜りましたことに篤くお礼申し上げます。

今後は仁和寺経営や御室派運営で得たことも参考にしながら、高龍寺の運営を勤めて参りたいと思いますので、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて来年令和五年は、弘法大師空海上人の御生誕千二百五十年に当たり、真言宗の各本山では記念法要や種々の記念企画が計画されております。未だに出口の見え難い

コロナ禍の中で計画されている法要などが、予定通り行われるか心配な部分もございますが、特にご生誕の地であります普通寺さんでは、連日の法要も予定されていますので、皆さんでお参りに出かけられたらと考えております。計画が立ち上がりましたら、お知らせいたしますので、どうぞ一緒にお参りに上がりましょう。

表記の写真は、御生誕千二百五十年を記念しまして出版された本で、お大師様のお言葉を引用しながら、お大師様のお教えとご生涯を分かりやすく著しておりますので、是非お読み頂けたらと存じます。お寺に取り寄せておりますので、お声掛けください。

合掌

お大師さま—足跡とおことば—  
著者 福田亮成 価格 1,100円(税込)



高龍寺の寺宝が展示されます。  
各会場にてぜひ、ご覧ください。

### 村上義弘贈位記

今治・尾道巡回展「村上家ヒストリー」

◆今治市村上海賊ミュージアム

令和4年6月18日(土)～8月28日(日)

◆おのみち歴史博物館

令和4年9月23日(祝・金)～10月23日(日)

◆因島水軍城

令和4年10月28日(金)～11月30日(水)

越智郡大嶋准四国開設由来など島四国の資料6点  
「四国遍路の特別展」

◆愛媛県立歴史博物館

令和4年9月7日(水)～11月27日(日)



## 御室流華道教室 受講者募集中



総本山仁和寺  
御室流華道



高龍寺では、月に1～2回の頻度で御室流華道教室を行っています。

講師は瀬尾宗正先生(御室流華督、智光山観音寺住職)です。

①御室流の華道伝授コース 月謝 5000円

②華道を楽しむコース お稽古料 1000円(各回)

※別途、花代(各回3,000円未満)がかかります。



## 高龍寺 SNS のご紹介



ホームページ、フェイスブック、ツイッター、インスタグラムなどのSNSで高龍寺の情報を発信しています。ぜひご覧ください。



<https://www.koryuji.jp/>



<https://www.facebook.com/koryuji/>



<https://twitter.com/koryuji597>



<https://www.instagram.com/koryuji597/>

# 仁和寺におつとめした四年間

本山である仁和寺は、平安時代に宇多天皇によって創建され、初代の宇多天皇から明治維新の三十代純仁法親王に至るまで、千年間に渡って天皇家が住職である門跡を勤めて来ました。明治以降天皇家が東京に出られて以降は、仁和寺の末寺が仁和寺を守りする事になり、そのルールに則り、私は四年間の任期で仁和寺に奉職した次第です。

その四年間は、ご承知の通りコロナ前とコロナ禍で真逆の四年間となりました。先ず最初の二年間は、金堂五大明王初公開が大評判となり、就任初年で大きな弾みとなりました。そして観音堂修復落慶に合わせて行った春秋の特別公開で、仁和寺始まって以来の多くの参詣者が仁和寺を訪れ、歴史的飛躍の年となりました。

しかし後の二年は、予想もできないコロナ禍。収入が見込めない中でのお寺の運営は大変厳しい二年間となりましたが、役職員が一丸となってどうにか二年間、仁和寺を守りすることができました。

四年間の中で写真一枚選ぶなら、迷わずこの一枚です。  
観音堂を修復した経緯と意義を仁和寺として祝賀会で表明させて頂いた時の一枚で、高円宮妃久子殿下ご臨席をはじめ、真言宗各本山の御重鎮の御前でご挨拶させて頂いた時の様子です。

この四年間の経験を基に、今後の寺院運営を真摯に勤めていきたいと念じております。

住職記



# 数え年について

副住職 鴨井悠真

檀家さんから時々「数え年とはそもそも何ですか？」と聞かれることがございます。普段は満年齢で生活していて、数え年は神社やお寺関係でしか聞くことはありませんから、そういう疑問が出てくるのも当然ですよね。

実は満年齢というのは明治に西洋から伝わってきた数え方でして、日本では数え年が本来の年齢の数え方なのです。

数え年の考え方にはゼロ歳という発想が無く、生まれた時点で一歳なのです。お母さんの胎内にいる時からカウントが始まっているので、命の数え方としては正しいのかもしれないかもしれません。

そして誕生日という考え方もなく、お正月を迎えたときに全員がプラス一歳されているのです。つまり、大晦日に生まれれば、いきなり二歳になっていたわけです。

では、なぜお正月にプラス一歳なのでしょう？ 日本ではお正月に歳神様と呼ばれる福の神がやってくる習わしなのですが、歳神様はこれから一年間無事に過ごせるように魂を与えてくれるそうです。余談となりますが、現在のお年玉の由来がこれではないか、という説もあるそうです。

そして、これまでに与えられた魂の数でその年齢がわかるということ、数え年と名付けられたそうです。

お正月の飾りつけも、元々は歳神様をもてなすためのものだと思います。

普段の生活では数え年を使うことがないのでとても分かりにくい、という声を時々聞きます。しかし数え年というのは、これまで歳神様から祝っていたのだということを表す、とても縁起のいいものなのです。

どうぞ数え年の話も、心にとめておいていただければ幸いです。

